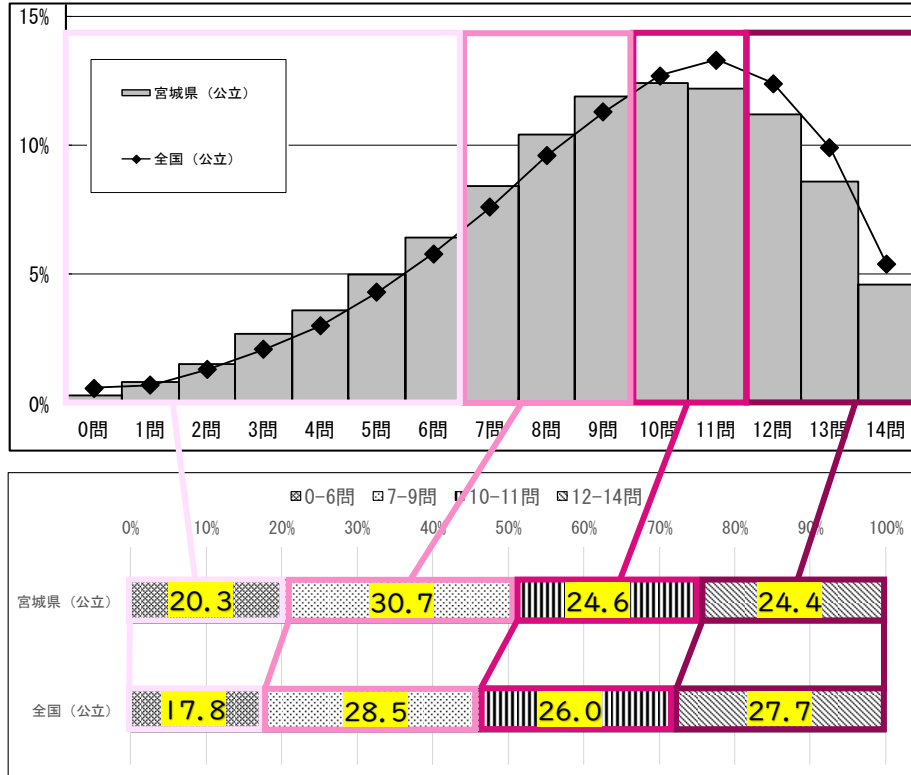


小学校国語科の調査結果

(1) 調査結果概況

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値
自校		/ 14		
宮城県(公立)	17,053	9.1 / 14	65	9.0
全国(公立)	936,137	9.4 / 14	67	10.0

(2) 正答数分布グラフ(横軸: 正答数 縦軸: 割合)と正答数ごとの層分布(全国四分位)



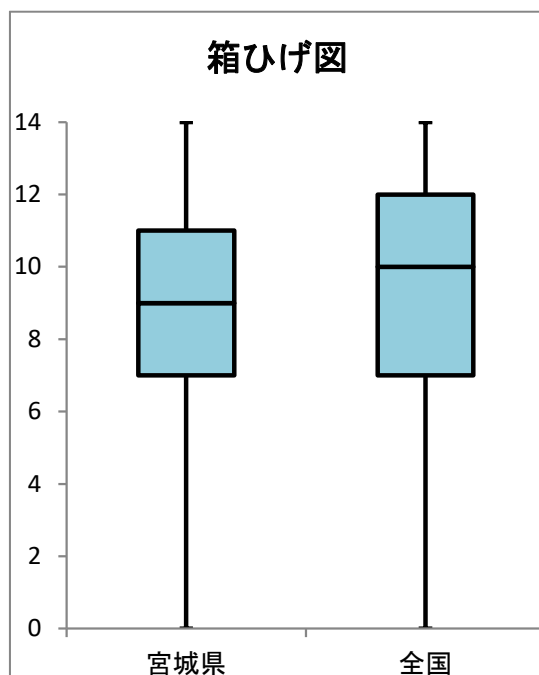
正答数集計値			
正答数	児童数	割合(%)	
	宮城県(公立)	宮城県(公立)	全国(公立)
14問	779	4.6	5.4
13問	1,472	8.6	9.9
12問	1,906	11.2	12.4
11問	2,079	12.2	13.3
10問	2,119	12.4	12.7
9問	2,031	11.9	11.3
8問	1,772	10.4	9.6
7問	1,439	8.4	7.6
6問	1,092	6.4	5.8
5問	858	5.0	4.3
4問	609	3.6	3.0
3問	459	2.7	2.1
2問	255	1.5	1.3
1問	128	0.8	0.7
0問	55	0.3	0.6

	宮城県(公立)	全国(公立)
12~14問	24.4	27.7
10~11問	24.6	26.0
7~9問	30.7	28.5
0~6問	20.3	17.8

(単位:%)

※全国の学力層(四分位)と同じ区切りで宮城県の学力層(四分位)を比較

★「箱ひげ図」による層分布(縦軸: 正答数)



	自校	宮城県(公立)	全国(公立)
第3四分位	問	11.0問	12.0問
第2四分位	問	9.0問	10.0問
第1四分位	問	7.0問	7.0問

※自校の学力層(四分位)を算出し、全国・宮城県と比較

以下のリンクをタップし、「Excel ファイル」をダウンロードして自校の四分位を入力すると、箱ひげ図に表して全国、宮城県と比較できます。ぜひご活用ください。



(箱ひげ図作成 Excel ファイル)

(3) 領域別の平均正答率

領域		問題数	正答率(%)		
			自校	宮城県 (公立)	全国 (公立)
知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方	2		71.7	76.9
	(2) 情報の扱い方	1		59.3	63.1
	(3) 我が国の伝統文化	1		80.5	81.2
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3		65.7	66.3
	B 書くこと	3		67.2	69.5
	C 読むこと	4		56.5	57.5

(4) 問題別調査結果

学力・学習状況調査結果(国立教育政策研究所 HP)

① 成果の見られる問題(◇)と課題の見られる問題(◆)

	問題番号 形式	領域	出題の趣旨	正答率(%)【全国との差】	
				県	自校
◇	3一 選択式	(3)言語 文化	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる	80.5 【-0.7P】	【 】
◇	3二(1) 短答式	C 読む	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる	81.3 【-0.3P】	【 】
◆	2三 記述式	B 書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	57.3 【-4.0P】	【 】
◆	2四イ 短答式	(1)言葉 の特徴	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	64.2 【-7.9P】	【 】
◆	3二(2) 選択式	C 読む	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかを	48.7 【-2.6P】	【 】
◆	3三(1) 選択式	C 読む	みる目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	40.6 【-0.2P】	【 】

② 無解答率の大きい問題([] : 問題番号と形式、 () : 領域、《 》: 無解答率、【 】: 全国との差)

・ [3三(2)] (C 読む) 《18.5%》【2.3P】

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる

<宮城県の傾向(小学校国語)>

- 正答数の分布は、全国と比較すると、やや上位層が少なく下位層が多くなっています。箱ひげ図から、中央値がやや低く、全体的に下方に分布していることが分かります。
- 「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く」「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える」は、比較的良好でした。
- 「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」、「文章全体の構成を捉えて要旨を把握する」、「目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付ける」等に課題が見られました。

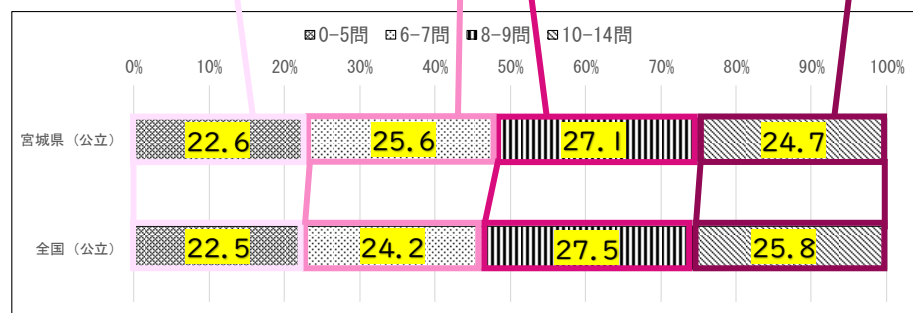
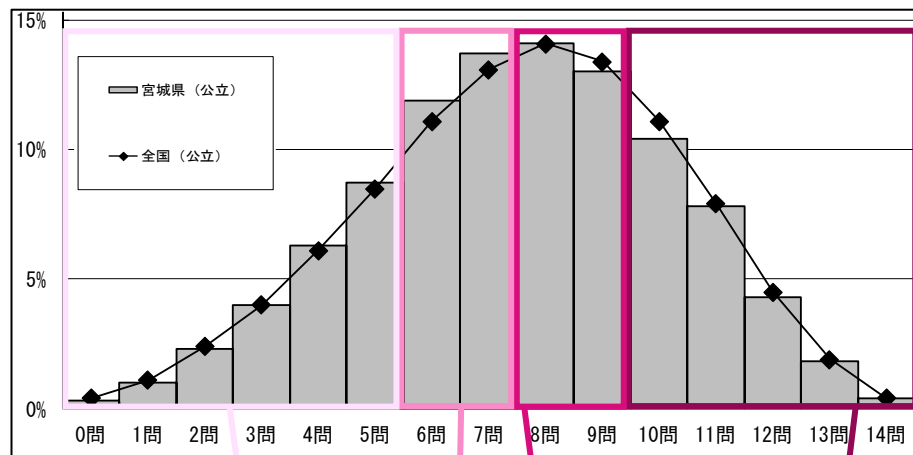


中学校国語科の調査結果

(1) 調査結果概況

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値
自校		/ 14		
宮城県(公立)	16,148	7.5 / 14	54	8.0
全国(公立)	870,560	7.6 / 14	54	8.0

(2) 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)と正答数ごとの層分布(全国四分位)



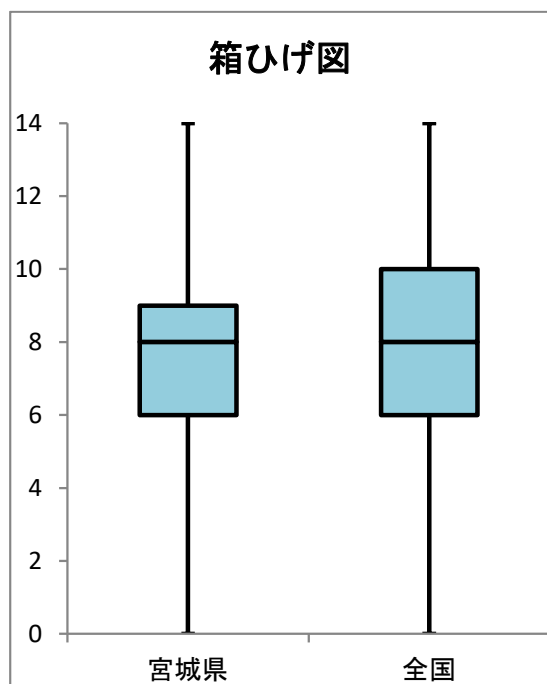
正答数	正答数集計値		
	生徒数	割合(%)	
	宮城県(公立)	宮城県(公立)	全国(公立)
14問	72	0.4	0.4
13問	284	1.8	1.9
12問	689	4.3	4.5
11問	1,261	7.8	7.9
10問	1,683	10.4	11.1
9問	2,106	13.0	13.4
8問	2,280	14.1	14.1
7問	2,214	13.7	13.1
6問	1,914	11.9	11.1
5問	1,406	8.7	8.5
4問	1,022	6.3	6.1
3問	642	4.0	4.0
2問	367	2.3	2.4
1問	154	1.0	1.1
0問	54	0.3	0.4

	宮城県(公立)	全国(公立)
10~14問	24.7	25.8
8~9問	27.1	27.5
6~7問	25.6	24.2
0~5問	22.6	22.5

(単位:%)

※全国の学力層(四分位)と同じ区切りで宮城県の学力層(四分位)を比較

★「箱ひげ図」による層分布(縦軸:正答数)



	自校	宮城県(公立)	全国(公立)
第3四分位	問	9.0問	10.0問
第2四分位	問	8.0問	8.0問
第1四分位	問	6.0問	6.0問

※自校の学力層(四分位)を算出し、全国・宮城県と比較

以下のリンクをタップし、「Excel ファイル」をダウンロードして自校の四分位を入力すると、箱ひげ図に表して全国、宮城県と比較できます。ぜひご活用ください。



(箱ひげ図作成 Excel ファイル)

(3) 領域別の平均正答率

領域		問題数	正答率(%)		
			自校	宮城県 (公立)	全国 (公立)
知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方	2		50.4	48.1
	(2) 情報の扱い方	0			
	(3) 我が国の伝統文化	0			
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4		53.3	53.2
	B 書くこと	5		51.0	52.8
	C 読むこと	3		61.6	62.3

(4) 問題別調査結果

学力・学習状況調査結果(国立教育政策研究所 HP)

① 成果の見られる問題(◇)と課題の見られる問題(◆)

	問題番号 ・形式	領域	出題の趣旨	正答率(%)【全国との差】	
				県	自校
◇	1二 選択式	B 書く	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	83.1 【+0.6P】	【 】
◇	3二 短答式	C 読む	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる	89.5 【-0.4P】	【 】
◆	1四 記述式	B 書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる	27.5 【-3.5P】	【 】
◆	2四 記述式	A話す ・聞く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	22.9 【-0.3P】	【 】
◆	3四 記述式	C 読む	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	16.6 【-0.5P】	【 】
◆	4一 短答式	B 書く	読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	51.6 【-5.7P】	【 】

② 無解答率のかい離が大きい問題([]:問題番号と形式、():領域、《 》:無解答率、【 】:全国との差)

- ・ [3四記述式] (C 読む) 《30.8%》【2.7P】※ 出題の趣旨は上記参照
- ・ [4一短答式] (B 書く) 《38.0%》【4.5P】※ 出題の趣旨は上記参照
- ・ [4二記述式] (B 書くこと) 《20.7%》【1.6P】

読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる

<宮城県の傾向(中学校国語)>

- 正答数の分布は全国と同程度になっています。層分布の比較からは、上位層がやや少ないことが分かります。
- 「目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする」「文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える」は、比較的良好でした。
- 「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える」等に課題が見られました。
- 「短答式」「記述式」の正答率が全国平均正答率をやや下回り、特に無解答率が高いことに課題が見られました。



小学校
国語
(読むこと)

<宮城県の児童の課題>

目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付ける

課題が見られた調査問題

C 読むこと
ウ【精査・解釈】

※紙面の都合上、問題に関する表記を一部変更している。

- 1【資料1】の——部①
(「この本を読むとお気づきにならぬと思います」)
- 2【資料1】の——部②
(「本来の意味「本来とは違う使い方」といった言い方にどめています」)
- 3【資料1】の——部③
(「コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません」)
- 4【資料1】の——部④
(「言葉は生きている」とも言われます。)

(1)【話し合いの様子】の「A」に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

言葉の変化については、いろいろな考え方があんだね。もう一度【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が一番なつとくしたことをまとめよう。

木村さん

こんなふうに、人によって言葉の意味のとりえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、【資料1】に「A」と書かれているとおりだと思うよ。

田中さん

本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

木村さん

私は、この資料(資料4)を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとらえ方にちがいがいることが分かるでしょ。

田中さん

ぼくが読んだ二つの資料(資料2、【資料3】)には、言葉が変化していることが書かれていたよ。【資料1】に「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれていることにながっているよ。

木村さん

【話し合いの様子】

③ 三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、「資料1」を読み返しています。次の【話し合いの様子】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

結果・誤答分析

解答類型	自校	宮城県	全国
1	%	5.4%	5.2%
2	%	35.1%	33.9%
3 正答	%	40.6%	40.8%
4	%	16.2%	16.4%
無解答	%	2.5%	3.4%

田中さんが【資料4】を読んで考えた「人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思う」という考えと、【資料1】に「コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません」と書かれていることを結び付けて捉えることができなかった児童が多く見られました。誤答2を選択した児童の中には「人によって言葉の意味のとらえ方がちがう」ことを【資料1】の「本来の意味」「本来とは違う使い方」の部分と結び付けて捉える児童がいたようです。誤答4を選択した児童の中には「人によって言葉の意味のとらえ方がちがう」ことを「言葉の変化」と捉えて、「言葉は生きている」と関係があると考える児童がいたようです。また、【話し合いの様子】の流れ自体を捉えることができなかった児童も多くいたと考えられます。

以上のことから、【話し合いの様子】で示されている内容やつながりを把握する力、目的に応じて複数の資料から必要な情報を見付け、それらを適切に結び付けて解釈する力等に課題が見られると考えられます。

授業アイディア例(国立教育政策研究所)

「複数の資料を読み、分かったことや考えたことをまとめる(言葉の変化)」(第5・6学年)

授業改善の視点

「読むこと」の領域で授業を行う際、「読む目的」によって「どのように読むのか」が変わってくるため、単元の指導前に、学習指導要領で単元の指導事項を確認し、育成すべき力を明確にすることが大切です。

次に「この教材をどのように読んでいけば、その力が身に付くのか」を考えて単元を構想し、授業づくりに取り組みます。この調査問題は、「目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付ける」という指導事項が身に付いているかどうかをみるために設定されています。この指導事項が重点となっている単元では、授業の中で「読む目的」(例：～について考えるため)を明確にして、文章と図表などの関係を捉えて読んだり、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにして読んだりする、といった読み方(「どのように読むのか」)をすることができるよう指導することが大切です。その際、図表からも必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることが求められます。

<宮城県の生徒の課題>

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える

課題が見られた調査問題

C 読むこと ウ【精査・解釈】

(令和七年度全国学力・学習状況調査
中学校国語 大問3(四))

四 [] で囲まれた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面のおとに続く話が書かれています。あとに続く話は、「一 榎木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。このような展開になっていることは「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

二人の兄弟 一 榎木の実 〈本文〉	二人の兄弟 二 釣の話 〈本文〉
-------------------------	------------------------

③ 次の文章は、島崎藤村が書いた「二人の兄弟」という物語です。この物語は、「一 榎木の実」、「二 釣の話」で構成されています。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

結果・誤答分析

解答類型	自校	宮城県	全国
1 正答	%	16.6%	17.1%
2	%	0.1%	0.1%
3	%	32.4%	34.2%
9 9	%	20.1%	20.5%
無解答	%	30.8%	28.1%

正答の条件は次の3つの条件を満たして解答することです。

- ① どのような効果があるかを書いている。
- ② ①のように考えた理由を、「[]」の部分のような『あとに続く話』が、『一 榎木の実』にはあるが、『二 釣の話』にはない」という展開を踏まえて書いている。
- ③ ②について、物語の内容を適切に取り上げて書いている。

解答類型3(条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの)の反応率が、宮城県 32.4%(全国 34.2%)と高い値を示しています。他の小問の正答率とあわせて考えると、文章の内容理解や、そこから得られる教訓、あるいは個別の表現がもたらす効果については考えられていますが、**構成や展開について根拠を明確にして考える**ことにつまずいていることが分かります。

無解答率が 30%を超えていることから、二つの文章を**読み比べた上で、それぞれを構造的に捉える学習や、構成や展開が全体としてどのような「効果」を生み出しているのかを考える学習**の質の向上が求められます。

授業アイデア例(国立教育政策研究所)

「文学的な文章を読む(二人の兄弟)」(第1学年)

授業改善の視点

本問題の無解答率は、宮城県 30.8%(全国 28.1%)と非常に高くなりました。授業では、生徒が次のようなことに取り組む機会を意図的に取り入れましょう。

- ・正解が1つではないことについて、自分の考えを持つ。
- ・考える際は、自分なりの意味付けをする。
- ・自分の考えの根拠を本文に求める。
- ・書くことで、自分の読みを確かめる。

生徒の発言や書いた内容については、**妥当性や真偽については是非を問うことが大切です**。この場面では、生徒同士で検討したり議論したりする場面を作ると、授業が活性化し「読む」力が付きます。

生徒の「おや?それでいいのかな?」という知的好奇心を満たす機会を作りましょう。

また、[知識・技能]として、**典型的な表現効果を整理しておくことは重要**です。例えば、ICTを活用し、クラス全員の知識を集約・共有することができます。この知識の可視化とデータベース化により、生徒は学習内容を時間や場所を選ばず、いつでも参照できるようになります。



(ICT活用例) 生徒が、表現の効果を付箋アプリに投稿したイメージ

国語の授業づくりは【指導事項】の確認から
～資質・能力を育成する授業づくり（小中共通）～

授業づくりのステップ（例）

参考：[R5 宮城県検証改善委員会報告書](#)（P31～33）

Step
1

単元の「指導事項（育成する資質・能力）」を確認する

- ・自校で作成した年間指導計画等を基に、単元で取り上げる指導事項を確認する。
- ・「学習指導要領解説国語編」で、重点とする指導事項の解説を読む。
→この Step 以降でも必要に応じて指導事項に立ち返ると、授業の方向性が確かになる。

Step
2

学習の系統と児童生徒の実態を押さえる

- ・同領域の既習単元でどのような資質・能力を身に付けたのか、この単元での学びが今後どの単元の学習につながるのかを確認する。
- ・指導事項についての児童生徒の実態を押さえる。
→具体的な指導・支援の手立てが見えてくる。

Step
3

教材を読む（特に重点指導事項と照らし合わせて）

- ・児童生徒の読みを予想する（疑問を持つ部分、つまづく部分等）。
- ・重点指導事項を踏まえ、教材の扱い方（切り口）を検討する。
→同じ教材でも重点指導事項によって単元計画が異なる。

Step
4

「単元目標」と「言語活動」を設定する

- ・目標は単元内で指導（評価も）可能な数に絞って設定する。
- ・指導事項や児童生徒の発達、学習の状況に応じた言語活動を設定する。

Step
5

「評価規準」を設定する

- ・目標と対応させて単元の「評価規準」を設定する。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、「粘り強い取組を行おうとする」「自らの学習を調整しようとする」2つの側面を評価することに留意する。

Step
6

単元計画（各時間の「学習過程」と評価の計画）を設定する

- ・単元の学習を通して、資質・能力を育成できるように学習活動を設定する。
- ・評価の場面（学習活動）、評価の方法、評価規準を設定する。
- ・評価規準について、実際の学習活動を踏まえ「おおむね満足できる状況（B）」「努力を要する」状況（C）への手立てを想定する。

国語の授業づくりは【指導事項】の確認から
～資質・能力を育成する授業づくり（小中共通）～

○「指導事項」による単元計画の相違 小学校5年（説明的な文章）

【単元の重点指導事項】C（1）ア「事実と感想、意見などとの関係を
叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」

の場合

★事実（事例）と意見（筆者の考え）の関係を押さえること、文章全体の構成を捉えて要旨を
把握することが単元の重点指導事項であるため「3」「4」の活動に重点を置いて指導する。

【単元計画例】

- 1 文章を序論・本論・結論に分ける。
- 2 文章全体の構成を考えて、それぞれの段落やまとまりにどのようなことが書かれているか、整理する。
- 3 序論と結論部分に着目して、筆者の考えや内容の中心を捉える。
- 4 本論部分から、事例と筆者の考えとの関係を捉える。
・事例を通して、何を主張しているか。
・事例を取り上げるねらいは何か。
- 5 筆者の考えと事例の係に注意しながら、要旨をまとめる（○字以内に整理して書く）。
- 6 筆者の考えに対する自分の考えを持ち、伝え合う。



指導事項が異なると…

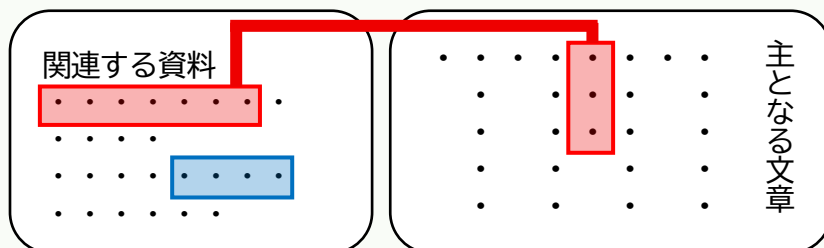
【単元の重点指導事項】C（1）ウ「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」

の場合

★目的に応じて複数の情報を重ね合わせて読み、自分の考えを広げたり深めたりすることが単元の重点指導事項であるため「3」「4」の活動に重点を置いて指導する。

【単元計画例】

- 1 文章を序論・本論・結論に分け、それぞれの内容を確認する。
- 2 文章の要旨をまとめる。
- 3 文章と関連する資料の内容がどのように関係しているのかを考える。
・文章と関連する資料の内容の共通点を見付ける。
・関連する資料の内容が、文章のどの部分を詳しく説明しているのかを考える。
- 4 筆者の考えについて、自分の考えをまとめる。
・関連する資料を読むことで自分の考えがどう広がったか。
・文章と関連する資料のどの部分に注目して考えたか。
- 5 書いたものを読み合って感想を伝え合う。



「指導事項」が異なれば、教材の着目するポイント・単元計画が変わります！